



みんなのでできる 地球温暖化防止活動

—一杯のコーヒーで世界とつながる!!—

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

■コーヒーノキ

コーヒーは、カフェやコーヒーチェーン、コンビニ、家庭で気軽に飲むことができます。コーヒーノキの栽培適地は、北緯25度と南緯25度の間です。コーヒーベルトと呼ばれるています。世界60数か国で生産され、約2000万人の人が働いています。

コーヒー豆の貿易額は、石油に次いで2番目に多いのです(富久栄珈琲うすい店⇨うすい百貨店9Fにて、馥郁なコーヒーを飲みながらこの原稿を書いています)。

■2050年問題

2050年問題とは、地球温暖化による気候変動が進むとコーヒーノキの栽培適地が減少し、コーヒーが飲めなくなってしまうのではないかとという問題です。昼夜の寒暖の差が小さくなると収穫量が減少します。栽培適地が縮小するので、栽培を高地へ移動させると労働環境が悪化します。気温が高くなると湿度も上昇

し、コーヒーノキの天敵サビ病が蔓延するかもしれません。悪いことばかりで生産が50%も減少し、需要に追い付かなくなるのではないかと心配されています。

■スペシャルティコーヒー

COE(カップ・オブ・エクセレンス)国際審査委員でもある、(株)富久栄商会代表取締役の中島茂さんにお話をお聞きしました。「海外、特にアフリカと取引がしたくてこの仕事を始めました。ルワンダの農園に足を運び、農園で働く人たちと交流し、現地から最良品のコーヒー豆をコンテナで直接輸入しています。」「生産国で正しく栽培管理されたスペシャルティコーヒーは、流通量の5%程度しかない希少品です。」

■みんなのでできる地球温暖化防止活動

アフリカや中南米に仕入れに出かける中島さんは、コーヒー農園の経営や働く環境の厳しさを知っています。「一杯のコーヒーを淹れるためには、栽培管理、摘果、果肉取り、乾燥、選別などたくさん仕事があります。コンマ以下の気温の変化で品質が劣化し、味が変わります。」「互いに競い合い頑張る農園を応援し、美味しいコーヒーを飲み続けることができますようにするために、コーヒーカップひとつからの地球温暖化防止の活動です。もちろん、水にも神経を使います。」

(連絡先) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>